



特定非営利活動法人 日本キャリア・カウンセリング研究会

キャリア・カウンセリング 83号

2013年11月号

9月の総会が終わり、JCCとしても新しい年度が始まったことを実感します。プロジェクト活動も新しいもの、新体制で再出発するもの、休止するものなど、よりJCCの理念が広がっていくことを願って再編・見直しも行われ、各リーダーを中心に、今後も活発に活動していきます。

他にも、各プロジェクトからのお知らせもございます。今回もどうぞ最後までよろしくお付き合いください。



<目次>

- 総会トピックス&東京大会(第一日目)レポート
- プロジェクト掲示板
- 「キャリアの現場から@大学編6」()
- 連載「飛職人のうんちく」第30章
- 新連載「キャリア開発あれこれ」(再開第一回)
- 理事会・事務局だより
- 会員レポート
- 編集部だより・活発プロジェクトの一言

日本キャリア・カウンセリング研究会（JCC）の基本理念

私たちJCC会員はワーキングライフ上のキャリア開発に関し、

1. 内的キャリアを重視し、個人主導の意思決定上の支援をする
2. 個人と組織の新たな共生を追求する
3. キャリア・カウンセリングの研究・普及・教育などの活動を通じ、個人・組織・社会の変革をファシリテートする

キャリアの現場から

大学編 その5

キャリアの仕事@広島

広島修道大学 盛矢 澄香

エンパワーメントパートナーとしてのキャリア教育

2002年JMAMのキャリアカウンセラー養成講座でCDWに出会って11年になります。2005年広島修道大学の川名先生(現 高千穂大学教授)とのご縁を戴き大学での活動がスタートしました。当時はキャリア・サーチという講座内で、企業で働く卒業生たちにインタビューをして働くことを考える、そのプロセスの中での、未熟上での失敗から学生たちに気づきを得てもらおうという主旨で、その下準備、今で言えばインターンシップ事前授業的な社会人と向かい合うことができるよう基本のキャリアについての考え方や最低限のマナーなどが担当でした。その講座は3年後、起業家精神講座として進化し、その中では、自身のあり方や可能性を引き出す基本ベース部分とチームビルディング部分を担当させて戴いています。

一方で2008年より、川名先生から『コーチング』というコマを作ったのでやってください』とひとコマ任せて戴きました。当初、「コーチング」という講義名にかなり悩みました。何故なら、コーチングはヒューマン・スキルの一部であり、大学生たちにそのスキルを15回の講義で教えるなんて…という思いがあったからです。もっとそのベースとなるマインドを育てることが大切だと考えていたからです。その思いを伝えると、「大丈夫です。思い通りにやってください」と理解して戴きました。とは言え初年度だけは、私自身に『コーチング』という講義名が呪縛のようにあり、コーチングスキルを学ぶ時のプロセスを組み込みながらの実施でした。

対象は2年生以上のB特講ですから、単位が足りない学生たちが大半、そして川名ゼミなどで、中小企業論や起業家精神を学ぶ積極的な学生たちでした。

進めながら気づかされたのは、学生たちは確かにスキルを知りたがってはいるけれど、それ以前に、自分に自信が持てなかったり、コミュニケーションがうまく取れなかったり、就職に対する大きな不安や恐怖を抱えていることでした。

次年度よりガラリーとメニューを変え、講座終了時にGROWモデルを設定し一歩が踏み出せる学生たちを育てるところに目標を置き、コーチングの基本スキルは講義中の細部に織り込み、最後の5回で互いにGROWモデルの設定をしあう場面でコーチングテクニックを使うカリキュラムとしました。



35名の履修制限をかけ、初回ガイダンスに出席が無い場合は受け付けない、月曜朝一スタートの講義、遅刻三回で一回の欠席扱い、三回欠席でアウトは勿論ですが、グループ交渉での救済措置はある・・・これがチームルールです。ガイダンス時点で「今の学生生活に満足している人、関わることが面倒な人、単位が欲しいだけの人はこんなうさぎ私の講義は受講しないほうがいいです。」とハッキリ伝えます。毎回100名を超す希望者が来てくじ引きで抽選しますので大学に取っては、あまり歓迎されないようで、最初は50名まで受け付けて欲しいとありました。最高45名で実施の時、あまりに目が行き届かないと感じて35名とさせていただきます。お陰で前期・後期での実施となりました。ただ、今年の後期は祭日始まりでなんと13名という少人数になってしまいましたが、本音はこれぐらいの人数が一人ひとりと深く関わられるので願ったり叶ったりですが・・・。



事前の個人情報をみると大半の学生たちが、就職への不安、コミュニケーションへの課題を取り上げています。中には、大学での学業の意味や意義が見出せず悩んでいる学生もいます。修大はマンモス校です。高校生活はクラス単位で過ごしてきて、それなりの楽しさも見出せていたのに、1回生で大勢の中で身近の人間だけでしか関れず、埋もれていく感覚で将来への不安を持つ学生も少なくはないようです。こんな彼らにどうすれば自分の中にある可能性に気づいてもらえるのか、いつも考えてしまいます。

さて、講義で何をしているのかというと、お家を立てる時のまさに基礎工事をしている感じです。講義の前半はまずは講義にちゃんと出てきて楽しんで参加すること、チームのルールを守ることから始まります。そして、必ず出てくる遅刻者の問題。ミ誰かの遅刻は全員の時間を奪うことや、必ずリカバリーが必要だと伝えます。彼らは、ミスをしてそのままにしてチャンスを失ったり、リカバリーをする時に発生する人間関係が面倒だとすぐに諦めてしまう学生が多いからです。ワークを通しながら、自分たちの今の価値観やモノサシはまだまだ開発途中であり、それが全てではないことを体験してそれが理解できると、バイトや遊び疲れて眠い月曜日に目を擦りながらでも出てくるようになります。自分にとって役立つ情報には目が無いので早い段階で、脳の働きや体の使い方を伝え、学ぶスタンスや気分の切り替えスイッチ方法なども伝えて、楽しく学ぶ姿勢を習慣づけるようにします。その上で、モチベーションの原動となる夢や目標を見つける作業や、メンタルの整え方などを積み重ねていきます。どの部分でストンと落ちるのは、個々によって全く違いますが、表情に自信が出てきたり、目が輝いてくる瞬間があります。日々のワークを通して起こる<失敗>。三回欠席者が出た時、特にドラマチックな展開が起きます。人は人との関わりによって育てられるというのが本当によくわかります。講義の積み重ねの中で、「キャリアとは、仕事を通した生き方・生き様である」という言葉がいつもよぎります。その基盤となる学生生活の中で、たくさんの体験をしてほしいと考えます。

さて、実際の学生たちとの関わりの中でここ数年、特に感じていることが大きくは3つあります。一つは、圧倒的にボキャブラリーが乏しい。少ないボキャブラリーの中で物事を判断しそれで満足してしまう学生たちが多いことです。質の良い人との出逢いや本などとの出逢いが少なく、バーチャル体験や偏った情報のみで世界を観ているなど感じます。知識は情報でしかないので、体験を通して学ぶことを多くさせたいと思います。2つ目は価値観の変化。特に3.11を境に大望を描く学生が少なくなったように感じます。一生懸命に働く先になにがあるのか、それでも一瞬にして失ってしまう、そして頑張ってもリストラされたりしてしまう。平平凡凡と大望を抱かず地道に……。危機感や喪失感、仕事を通して自分が育ち自己実現ができることへの期待が持てていないようです。そして、コミュニケーションの変化。学生とのやり取りも、PCメールから、携帯メールへ、そして今ではfacebookやlineです。特に学生同士のつながりもツールを通した二次的交流が中心で対面でのコミュニケーションがうまく取れない学生が多いのが現状です。そこで大人が頭ごなしにそれを否定してしまうのではなく、理解しそれも上手に活かしながら、しっかりと対面でのコミュニケーションを取りながら本当に理解しあうには何が必要か伝えていかねばいけないと感じます。

広島修道大学の場合は、二回生からキャリア教育が実施されています。これは修大だけの話ではなく一昨年、広島県の大卒未就労者約100名のキャリア教育のお手伝いをしましたが、国立、県立、私学卒業の全員がキャリア教育を受講していました。ただ、大講義室で100人、200人で学問として学んできたという話しに愕然としてしまいました。本当のキャリア教育とは何か問われていると痛感します。

今回、小野寺氏より「盛矢さんのやっていることは、まさにキャリア教育ではないですか」と声をかけて戴き、喜びと同時に正直戸惑いました。手さぐりの中での自分にできる精一杯のことをやっているのが現状です。それでも独立して11年目、向かい合う対象がどこにあるかと、「エンパワーメントパートナーとして一緒に見出したいことは、「向かい合う人やその組織が持つ“生きる力”です」とやっと自分なりの確信を持って言えるようになりました。その中で、私自身も常に脳への情報を更新しながら変化し続けていきます。今年から「はたかちカード」も組み込んでいきます。まだまだ私自身に進化が必要です。将来花咲かせる学生たちには、社会の中で強く、やさしく、たくましく生きていく力が自分の中にあることに気づいてほしいと願っています。ありがとうございました。報恩感謝。



講義風景

